

●苦渋の選択で魚とりを中止と決定

中止を決定した7月27日時点で、参加申込者数は、7月31日は大人19人、子供21人で総計40人、8月6日は大人8人、子供9人で総数17人でした。また新しいスタッフとして6名の方をお願いするなど、里山の会としては協力をいただける皆さんに声をかけてきました。ところがコロナの感染者の記録は連日塗り替える勢いで増加の一方です。政府は無責任で、それぞれが自主的に防止をしないとムゲな方針でした。里山の会では、それまでは開催の方向で準備を進めてきましたが、7月27日水曜日の午後から急遽事務局会議で開きました。参加者希望者の中には、遠く九州から親元に帰ってきた孫にふるさとの木津川をお爺さんと一緒に楽しもうとされるなど準備されていました。ほかの皆さんも同じように期待をされていたに違いありませんでした。しかし川を管理している国交省もまた、京都府もきっぱりした方針がなく曖昧でした。仕方なく里山の会では、暑い暑い真昼間に開催場所を点検に行き想像を超える雑草の繁茂を見て、開催のためには急遽大変な広さの除草作業の実施が必要となるので、我々の力量を振り絞ってもとても会場の確保は不可能と判断して中止に至りました。またこれまで開催の中心を担ってきたスタッフは80歳を超えたり、直前であったりして開催前日にぎりぎり迄「熱中症」を心配しながら除草作業を繰り返して、当日は朝早くから諸準備をしなくてはならない負担を考えると、ボランティアの域を超えてのことになる、危険作業だろうと考えられるだろうから、無理はできないとして中止はやむを得ないと決定しました。夏休みの楽しみにしておられたイベントを台無しになってしまったことに大変心が痛みます。

ここで万一の不幸な出来事が起れば、これまで無事故で行ってきた伝統と信用がなくなり、多くの皆さんに多大な心配をかけることになります。そうしたことが予想されるとき危険を回避する勇气が必要でした。来年度はさらに年齢が加算され、体力が後退してきますので、現勢力では実行できなくなってくることは自明の理なのです。まさに若い元気にあふれた人材の必要性が明らかになった出来事でもありました。

今回参加申し込みをされた保護者の皆さんに強く呼びかけをいたします。それなら俺たちで実行してやろうではないかと立ち上がってくださるようお願いいたします。里山の会は毎週水曜日の午前中に事務局会議を開催しておりますのでご連絡ください。心から電話をお待ちしております

●「京の七夕」まつりに使用される竹・笹

「京の七夕」まつりに使用される竹・笹の提供依頼が京都市商工会から四商店街に届ける依頼があり、7月27日には京都錦商店街に、29日には竜馬商店街、8月1日には丹波橋商店街と新京極商店街に笹・竹を届けました。それぞれの商店街は客の集中する時間が違いますので、納品時間が違ってきて手間がかかりました。中には小学校や幼稚園などの協力を得て短冊を用意されるところもあり、また商店街の会員さんが飾り物を製作されるところなど様々な取り組みをされて京の暑い夏の乗り切りに工夫されています。少しはそのお手伝いのできたのではないかと思います。

●2022 年度の京都府交響プロジェクト

今年度も申請書の修正箇所の訂正が一応一段落出来ました。昨年度は有田さんが大奮闘していただき、見事に審査を通過して 300 万円余の事業計画が承認されました。2022 年度は申請書作成が素人ではなかなか十分に描き切れませんので、何度となく修正指導をいただきながら 7 月 31 日に審査書類が整いました。これからやましろ地域の全自治体の代表者によって審査されることになります。今年は 14 項目の取り組みを提案しています。5 万円以上の物品購入は見積書を用意しなければなりません。農園での整備のための肩掛け刈り払い機が 10 年以上使ってきて、調子が悪くなってきたので助成をいただけるよう申請いたしました。審査が通れば忙しい中ですが、動画作成のための指導を申請すればご指導をいただけるので学習してみたいと思います。また申請にあたって振興局には親切なご指導を幾度となくいただいたことに感謝しています。

一般の助成金申請には力いっぱい発揮して申請書を提出しても、なかなか承認いただけないもので、夏原グラントに 50 万円、そして近畿建設協会に 50 万の助成金交付申請書を提出いたしましたが、いずれも不採用となりました。なかなかむづかしいものです。京都府交響プロジェクト申請が無事に承認決定されることを祈るものです。交付決定されました暁にはぜひとも大きなご協力をお願いいたします。

●今年の中聖牛や竹蛇籠製作について

講師役で竹蛇籠指導に 10 月 10 日に桂川の嵐山下流付近で保津川漁業組合の皆さんに対しての指導依頼が決定しています 10、15、16 日の 3 日間で 8 本の蛇籠づくり指導、そして 11 月 5～10 日に河原の石集め、11 月 12・13 日に石詰めして竹蛇籠を使った魚道を完成させます。

それ以外に中書島の京大ラボラトリーに中聖牛のモデル設置が予定されています。京大の日程は未定ですが実施は確実に行われます。決定次第お知らせいたします。

●農園のヒマワリと木津川堤防のナツズイセン



農園では吉村さんの植えた 150 本のひまわりが咲いています。また、木津川堤防のナツズイセンの写真が大釜さんが送ってくれました。